

（令和 6 年度中実績・令和 7 年度評価）

■大項目にかかる評価

【評価点】
S：特筆すべき進捗状況
A：計画どおり
B：おおむね計画どおり
C：やや遅れている
D：重大な改善事項あり

（参考：小項目の評価点）
V：計画を大幅に上回って実施している
Ⅳ：計画を上回って実施している
Ⅲ：計画を順調に実施している
Ⅱ：計画を十分実施できていない
Ⅰ：計画を大幅に下回っている

【小項目評価（V～Ⅰ）の大項目評価（S～D）への反映の考え方】
●小項目について、概ねⅢの評価であれば、大項目はB評価を基本とする。
●大項目について、B以外の評価を行う場合は、小項目の評価でⅣ以上の高評価・Ⅱ以下の低評価となっている項目について、単に項目数ではなく、項目ごとの内容の中期目標での重要性等を考慮し、総合的に判断の上、その理由を示す。

大項目	番号	内容	詳細（中期目標より）	市長評価（案）				評価委員会意見 （要旨）
				大項目		小項目		
				評価点	評価の理由	番号	評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1	動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	・多くの方に来園したいと思っていただけるよう、展示動物の充実により動物園の魅力を向上させるとともにその魅力発信を強化する。 ・再度来園したいと思っていただけるよう、快適な園内環境を創出する等、来園者満足度を高めるための園内サービスの充実を図る。	A	・JAZA等動物園コミュニティの活動への継続的な参加に加え、他園館から個体を預かり、健康状態を良好に保ったうえで返還したことで、園の信頼向上につなげた。 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）の規定による「認定希少種保全動物園」に認定されたことから、動物導入にかかる手続が簡略化され、ニホンイヌワシの有精卵の譲渡時に寄与した。 ・令和7年1月1日に開園110周年を迎え、各種イベント、広報活動について積極的に取り組んだ。 ・複数の動物を導入し展示の充実を図ったほか、園の魅力発信、サービスの充実を通じて園の魅力向上につながった。 ・上記より計画どおりであることからA評価とする。	1	Ⅳ	項目1（動物導入） ・他園の動物を預かるということは技術力に自信が無いとできないことである。 項目2（種別管理等） ・ニホンイヌワシの件は大きな成果であり、評価して良い。 項目4（イベントの実施） ・各種イベントや情報発信については色々とチャレンジしており、頼もしささえ感じる。高く評価できる。
						2	Ⅳ	
						3	Ⅲ	
						4	Ⅳ	
						5	Ⅲ	
						6	Ⅲ	
						7	Ⅲ	
						8	Ⅲ	
						9	Ⅲ	
						10	Ⅲ	
						11	Ⅲ	
						12	Ⅲ	
	2	動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	・教育普及機能を強化し、飼育動物の生態のみならず、環境問題も視野に教育普及活動を行い、来園者の行動変容に繋げる。	B	・教育普及アクションプランに基づくディスカバープログラムについては、令和5年度に比べて実施件数が増加しており、アンケートからも利用者の行動変容がうかがえる結果となっており、教育活動の推進に貢献した。 ・ボランティアクラブの会員数も目標数に達しており、活動機会の増加も含め法人の努力が現れている。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	13	Ⅲ	
						14	Ⅲ	
						15	Ⅲ	
	3	動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	・動物園の主役である動物たちが健康で幸せに暮らせる環境を創出するために、飼育管理機能を強化する。 ・飼育技術を継承・高度化するとともに、世界に通用する飼育基準に適合した獣舎整備を推進する。	A	・環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングについては取り組み種100%を達成しただけでなく、対象種を拡大しつつ質の維持・向上に取り組んでいる。 ・他園館より参加者を募ってエンリッチメントワークショップを開催し、新たな知見の獲得に努めた。 ・これらの活動は、動物たちが健康で幸せに暮らせる環境を創出するだけでなく、動物福祉に配慮した高度な飼育技術の確立に貢献するものである。 ・獣舎整備については、工事途中で予期せぬ現場条件が発生したことにより年度当初の進捗率に達しなかったものの、法人の責に帰すべき原因ではなかった。 ・上記より、計画どおり進んでいることからA評価とする。	16	Ⅲ	項目17（環境エンリッチメント・ハズバンダリートレーニング） ・環境エンリッチメントに関するワークショップを開催し、他園館の職員とともに取組を向上させた点が素晴らしい。 項目19（リニューアル工事） ・リニューアル工事については予期できない事情により遅れており、法人としては責任や改善できる点が無いのではないかな。
						17	Ⅳ	
						18	Ⅲ	
						19	Ⅱ	
						20	Ⅲ	
4	繁殖及び調査研究活動の推進	・飼育動物の維持・充実とともに、生息域外保全という観点から種の保存に貢献するため、繁殖技術の向上を図る。 ・動物の生態に係る各種調査研究活動を推進することで国内外の動物園からの信頼を高める。	A	・繁殖技術の向上に継続的に取り組んだほか、令和6年度はオオサンショウウオの保全に向けて、年間を通じて府内の域内保全活動に参加するとともに、普及啓発の講演を開催し、種の保存に寄与した。 ・調査研究については、引き続き飼育各班に研究テーマを割り当て、研究を実施したほか、安楽殺ガイドラインを策定し他園館から提供を求められたほか、逸走事案の発表により業界全体の安全性向上に貢献するなど園の信頼向上にもつながった。 ・上記より、計画どおり進んでいることからA評価とする。	21	Ⅲ	項目25（研究） ・安楽殺ガイドラインについては他園の模範となることができた。 ・逸走事案の発表について、多くの参加者が業界の重要事例として参考とするものとして印象に残り、安全性向上に貢献できた。高く評価したい。	
					22	Ⅲ		
					23	Ⅲ		
					24	Ⅲ		
					25	Ⅳ		
2 効率業務に運営する改善項目及び	1	自律的な組織経営	・機動的な組織体制の構築 ・適材適所の柔軟な人事配置	B	・機動的な組織体制の構築に向けた取組を行っており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	26	Ⅲ	
						27	Ⅲ	
	2	人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	・人材の確保・育成 ・職員の能力向上と意欲喚起	B	・研修等を実施し、継続して人材育成に取り組んでいる。 ・インセンティブが適正に働く人事評価制度を構築し、運用を開始した。今後、職員の能力向上と意欲喚起につながることを期待したい。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	28	Ⅲ	
						29	Ⅲ	
						30	Ⅲ	
	3	効果的・効率的な業務執行	・PDCAサイクルの確立 ・ICTの導入及び活用	B	・適宜、市と情報共有を図りながら進捗管理を行ったほか、各種システムについても安定して運用しており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	31	Ⅲ	
32						Ⅲ		

大項目	番号	内容	詳細（中期目標より）	市長評価（案）				評価委員会意見 （要旨）	
				大項目		小項目			
				評価点	評価の理由	番号	評価		
3 財務 内容 の改 善に 関す る	1	収入の確保	・着実に入園料収入を確保する。 ・戦略的な渉外営業や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。	B	・入園料収入は目標値に届かなかった一方で、入園料外収入については営業活動によって法人ファンクラブの更新や新規寄附等につながっただけでなく、金融機関と遺贈寄附にかかる協定を締結した。収入の確保に向けて着実に取り組んでいる。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	33	Ⅱ	項目33（入園料収入・入園者数） ・入園者数は動物園の魅力に対する評価そのものである。 ・無料入園者数について「みなし収入」として評価することもできるのでは（総額主義の観点）。 ・無料入園者も何も買わないことはないだろうから、グッズ収入につながるし、グッズも魅力の一つである。 ・自己財源確保のため、入園料（単価）を上げるべき。 項目34（クラウドファンディング） ・できなかったことは残念ではあるが、前向きに検討した結果の仕切り直しと理解する。クラウドファンディングは参加した人を今後にどうつなぐかが大事。 項目35（渉外営業） ・伴走支援してくれる専門家のアドバイスを受け入れる体制が重要。	
						34	Ⅱ		
						35	Ⅳ		
						36	Ⅳ		
						37	Ⅲ		
	2	経費の節減	・業務内容の精査により、経費節減に努める。 ・投資についても、経費の抑制に努める。	B	・ごみの排出量や光熱水費の削減に継続的に努めており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	38	Ⅲ		
						39	Ⅲ		
	4 その他 業務 運営 に関 する 重要 事項	1	内部統制の強化	・法人が適切に業務を運営していくため、内部統制の確立・強化に必要な環境を整備する。	B	・継続して内部統制にかかる取組を実施しているほか、不適正事案の発生に際しても適宜対応し、再発防止策を講じている。 ・おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	40	Ⅲ	
							41	Ⅲ	
							42	Ⅲ	
43							Ⅲ		
44							Ⅲ		
45							Ⅲ		
46							Ⅲ		
2	来園者の安全確保	・施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。	B	・来園者の安全確保に向けて、継続して取り組んでおり、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	47	Ⅲ			
					48	Ⅲ			
					49	Ⅲ			
3	職員の安全衛生管理	・安全対策の徹底と事故防止に努める。 ・職員が心身ともに健康を保持し、その能力を充分発揮できる職場環境づくりに努める。	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	50	Ⅲ			
4	環境に配慮した取組の推進	・環境に配慮した取組を推進する。	B	・環境に配慮した取組を継続して実施しており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	51	Ⅲ			
5	情報公開の推進	・毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。	B	・法人が公開する財務諸表や年報について、内容の充実を図るよう検討した。 ・おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	52	Ⅲ			
6	B C P の策定	・B C P（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	53	Ⅲ			

■全体評価

- 各項目の評価を踏まえ、記述式で評価。
- 年度計画の項目にはないが、中期目標の達成に資するものがあれば、ここで評価を行う。

【市長評価】
全体として計画どおりに進捗している。令和6年度の主な成果として、動物園コミュニティ活動への積極的な参加が、他の施設からの信頼を向上させた点が高く評価できる。具体的には、のとりま水族館や葛西臨海水族園から動物を一時的に預かり、健康を保ったまま返還したことや、研究会において逸走事案に関する発表を行い業界全体の安全性向上に貢献したことが挙げられる。また、研究会で得た知識を園内で共有・実践することで飼育技術の向上と環境改善を図る体制が整いつつあり、さらに、他の施設から参加者を募った環境エンリッチメントに関するワークショップ開催や、安楽殺ガイドラインの提供を通じて、天王寺動物園の業界内での存在感を高め、生物多様性保全に貢献できた。
独法化後の動物福祉向上や繁殖に関する取組が評価され、7月には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）に基づく「認定希少種保全動物園」に認定された。これにより動物導入手続きが簡略化され、孵化までの時間を考慮すると移動可能な日数が限られるニホンイヌワシの有精卵をスムーズに譲り受けることができた。また、グラントシマウマなど複数の動物も導入しており、これらの法人の運営により、動物園の魅力が向上している。
収入確保に関しては、営業活動による寄附増加や遺贈寄附にかかる金融機関との協定締結が着実に進展している点を評価する。しかし、令和6年度には複数の不適正事案が発生しており、リスク管理と再発防止策についての継続的な取組を求める。
令和7年度は第一期中期目標期間の最終年度にあたる。過去の取組を振り返り中期目標の達成に努めるとともに、第二期以降を見据えた法人全体でのビジョンの共有を行い、目標達成に向けて全力で進むことを期待する。

【評価委員会意見（要旨）】